



水原 耕一 議員

Q 空き家対策の考えは

A 町長

空き家問題は今後、総合計画のもとで検討していく。

【Q1】 令和2年度の調査だが、町内に空き家が516件、その中で危険な空き家が92件あるとの事だが、住民の方からの相談は入っていないか。

【A1】 解体費用の問題や、危険空き家に対しての相談が入っている。

【Q2】 危険空き家に対して、解体費用の補助を行っている市町村があるが、熊野町でも考えられないか。

【A2】 個人の財産に公費を使う事には課題があるが、安心安全に暮らせる町づくりを促進していくためには、検討する必要があると考える。

【Q3】 新築住宅の人気の高さから、中古住宅が売れない現状がある。中古住宅に価値が見いだせる施策が必要では。

【A3】 空き家の再生に関する制度を調査、研究していく。

【Q4】 観光客を呼び込む対策を進め、空き家をゲストハウスにする方への支援はできないか。

【A4】 民間でのゲストハウスの取り組みは町の活性化に繋がる。空き家活用について、観光町づくり対策と一体となる施策を研究していく。



中島 数宜 議員

Q 串掛林道の不法投棄抑止策は

A 町長

地域、海田警察等と連携して不法投棄のパトロール等の取組みを継続する。

【Q1】 不法投棄抑止策としてのパトロールの現状と強化策は。

【A1】 串掛林道は毎月早朝と夜間の各1回のパトロールと、更に町職員により月平均25回巡回を実施している。今後は引越、年末大掃除シーズンに重点的にパトロールを増加して不法投棄の抑止を図る。

【Q2】 串掛林道には不法投棄監視カメラが1か所だけである。増設が必要と思うが。

【A2】 町内には串掛林道と呉地ダムへ向かう林道にそれぞれ1か所設置している。不法投棄の状況を考慮し検討していく。



▲不法投棄の状況

【Q3】 串掛林道入り口付近に「ここから不法投棄監視区間」などの大型看板を設置できないか。

【A3】 看板の設置は、心理的に不法投棄を抑止する効果があると思うので検討していきたい。

【Q4】 林道の未舗装部分は個人所有地である。土地を守るための対策は問題ないか。

【A4】 自己防衛として対策を行うことで効果は期待できると思うが、境界等のこともあるので相談をお願いしたい。

Q 避難路整備の取り組みは

A 町長

避難路の整備は大変重要なものと認識しており積極的に取り組む。



【Q1】 大雨時、一気に水が集まる箇所では排水が間に合わず、グレーチングの隙間から水が噴き出る状況を作りだし、土地が低い場所では、すぐ浸水する。対策は考えているか。

【A1】 度々浸水する箇所の解消に向けた取組を順次進めている。萩原交差点では県と連携しながら調査測量設計業務を行い、早期に緩和できるように対応していく。

【Q2】 浸水する場所のアスファルト舗装を、時間雨量13.3ミリまで地中に浸透させることができ、透水性舗装に変えてみることはできないか。

【A2】 雨水の流出抑制対策として都市部において試行等を行っているが、課題もある。今後県内の動向に注視していく。

【Q3】 災害などの時、逃げ遅れが心配な行き止まり道路の把握はしているか。また、改善対策は考えているか。

【A3】 図面上ではあるが把握はしている。対策は建設課と防災安全課が連携して、避難路整備を進めていく。



▶大原ハイツの避難路

Q 地域版ハザードマップの作成を考えている。その見解は

A 住民生活部長

危険個所の詳細な地図の作成は避難時大変有効である。積極的に作成を。



【Q1】 作成にあたって町の支援はあるか。

【A1】 支援にはいくつかのメニューがあり、「災害図上訓練」「まち歩き」等を組み合わせた講座がある。これらの結果を「自主防災組織支援事業補助金制度」を活用して地域防災マップとして印刷等することが可能である。事業を実施する場合は利用していただきたい。

【Q2】 作成にあたって救急車、消防車等の通行が困難な区間を路線名別に作成を考えている。町の道路台帳は閲覧可能か。

【A2】 道路台帳には、路線名、起終点、路線延長、幅員等を記載しており、建設課で閲覧できる。

【Q3】 町道認定の条件と考え方は。

【A3】 昭和36年当時の認定の考え方は、人馬が通行できれば認定されていたようだが、現在は道路の構造基準に基づき認定している。

【Q4】 1.2mの幅員道路が町道となっている区間がある。町は今後どのように解消するのか。

【A4】 地域の要望が高く、用地協力が得られる個所について必要に応じて対応していく。



▲町道狭あい箇所